国語科学習指導案

研修グループＡ

廿日市市立廿日市中学校　　沖村　桃子

府中町立府中緑ケ丘中学校　村髙　聡子

坂町立坂中学校　　　　　　加藤　真保

尾道市立久保中学校　　　　水野　沙代

世羅町立甲山中学校　　　　山川　要

１　日　時　令和５年10月10日（火）第３校時

２　学　年　第１学年１組　男子17名　女子20名　計37名

３　単元名　フラグ発見～だから「文学」って「面白い」！～

「少年の日の思い出」（「新しい国語　１」東京書籍）

４　単元について

（１）単元観

　本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）国語第１学年〔思考力、判断力、表現力等〕のＣ読むこと（１）エ「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」を受けて設定したものである。

　文章の構成や展開について考えるためには、文章の組立てや作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、考えの進め方や登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉えその展開を把握することが求められる。文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることが重要である。

　表現の効果については、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。例えば、本単元では描写の仕方や比喩をはじめとした表現の技法などに着目することが考えられる。

　これらについて考える際には、根拠を明確にすることを重視する必要がある。例えば、文章の構成や展開、表現の効果について自分の考えを書く際に、自分の考えを支える根拠となる部分を挙げることである。

 　本単元で扱う教材「少年の日の思い出」は、第一場面に「わたし」と「客」のやり取りが描かれている。ここには、次の第二場面につながる伏線が多く散りばめられている。教材文や並行読書から伏線を見つけることを通して、作品にもたらす表現の効果や伏線の役割などについて捉えさせることができると考える。

（２）生徒観

　本学級の生徒は、「国語の授業はわかりますか。」という問いに対して、「あてはまる」「ややあてはまる」という肯定的回答が84%と高く、国語の授業に対しての意欲が高いと言える。

　ただし、意欲はあるが、読み取る力が定着していない現状がある。夏休み明け試験において、文学的な文章についての正答率が44％だった。なかでも、「ペットボトルを持ち続けるのが困難なほど震える。」という描写の原因について説明する問題での正答率が18％であった。誤答には、正解の部分ではない表現を抜き出している生徒が多く、「指先の震え」を表現している部分が「登場人物の強い気持ちを表している」という効果を読み取ることが出来ていなかった。学年においても正答率が52.2%と低く、文章の表現の効果を意識して読むことができていない実態がある。

（３）指導観

　生徒観でも述べたように、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることが苦手な生徒が多いと言える。

今回は第一場面の現在の場面からではなく、第二場面の「客」の「少年の日の思い出」の回想場面から授業を展開する。それにより、チョウ集めの思い出、少年時代特有の熱情と高揚感、また、その熱情ゆえに盗みという罪を犯してしまった主人公の心の痛み、さらに最後の場面で大切なチョウを粉々に押し潰してしまったことへの解釈を深めた上で、第一場面の現在の場面と第二場面以降の回想場面とをつなぐ「伏線」の効果、役割をより深く考えさせたい。

　さらに並行読書を行うことで、教材文で身に付けた力を活用する場面を設定し、構成や展開についての作者の意図や工夫を考えさせることができると考える。また、読む際の視点が新たに加わることで、読書の楽しさを味わわせ、今後の読書活動へとつなげることができる授業になると考える。並行読書リストには絵本、ショートショート、短編小説、長編小説と、本を読むことが苦手な生徒でも手に取りやすいものから、本を読むことを好む生徒が読むであろうものを選別した。

５　単元の目標

（１）事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

 〔知識及び技能〕（１）ウ

（２）文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕（１）エ

（３）言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　「学びに向かう力、人間性等」

６　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。（（１）ウ） | 「読むこと」において、表現の効果について根拠を明確にして考えている。（（１）エ） | 粘り強く、表現の効果について根拠を明確にして考え、学習課題に沿って記録しようとしている。 |

<評価の具体>

|  |  |
| --- | --- |
|  | 評価規準【「おおむね満足できる」状況（Ｂ）】 |
| 思考・判断・表現 | 評価問題二について、問いに沿って「伏線」を探して選択肢を正しく選び、また、探した「伏線」に対し、問いに沿って根拠を基に表現の効果について説明できている。 | 本文：蔵間サキ著『意味が分かると鳥肌が立つ話』より「告白」①　**イ**・・・「伏線」である表現の選択肢を適切に選んでいる。**(表現)**②　**「男の子がメールを送った相手は、一緒に文章を考えた女の子だった」**あるいは**「男の子は、相手が絶対にOK をしてくれる告白文を作るために、当の本人に文章を考えてもらった」****・・・**①の根拠を適切に抜き出している。**（理由の根拠）**③　**「彼」の好きな人は「私」で、「私」にフラれた後に「私」と付き合うことは成り立たないから。**・・・②と結びついた理由付けができている。**（理由）**④　**「私」が「彼」にフラれそうという伏線が、結論の両想いと真逆で、そのギャップから結論を強調させる効果がある。**・・・伏線にどのような効果があるか説明できている。**(表現の効果)** |

７　指導と評価の計画（全11時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学　習　内　容 | 評　　　価 |
| 知 | 思 | 主 | 評価規準・評価方法等 |
| 一 | １ | ○　文学作品を読んで、どんな時に「面白い」と思うかを考える。○　文章『プリンの行方』の前半を読み、このあとどうなるかを予想する。○　文学作品の魅力の一つとして「伏線」という表現の効果があることを理解する。 |  |  |  |  |
| 二 | ２ | ○　「少年の日の思い出」を通読する。○　「問い」を立てる。 |  |  |  |  |
| ３４５６ | ○　「回想」場面に注目し、 登場人物の人物像の表現に線を引く。○　クジャクヤママユを盗む場面における「僕」の心情を表す描写に線を引く。○　「僕」と「エーミール」　とのやり取りの場面における心情を捉える。○　チョウを押しつぶした「僕」の場面を捉える。 | 〇 | 〇 |  | [知識・技能]ワークシート・ここでは、場面描写の言葉や登場人物の心情を表す言葉に線を引き、描写を書き出して、その意味をワークシートに記入しているかを確認する。[思考・判断・表現]ワークシート・ここでは、描写を基に心情の変化を捉えているかを確認する。 |
| ７ | ○　「現在」の場面に着目　し、なぜ文章に「現在」の場面を入れる必要があるのかについて考える。○　どのような表現が、伏線　であるかに気付く。○　伏線の効果について知　る。 |  | 〇 |  | [思考・判断・表現]ワークシート・ここでは、伏線描写の表現に線を引き、その表現の効果について根拠を明確にしながら、自分なりの意味付けを行っているかを確認する。 |
| ８ | ○　「少年の日の思い出」から「伏線」を探し表現の効果について考え、記録したものを交流する。 |  |  | 〇 | [思考・判断・表現]ワークシート・ここでは、伏線描写の表現に線を引き、その表現の効果について根拠を明確にしながら、自分なりの意味付けを行っているかを確認する。 |
| 三 | ９ | ○　並行読書を通し、選んだ　本から「伏線」を探し、表現の効果について考え、記録する。○　同じ作品を読んだ別の生　徒のワークシートを読　　み、伏線回収の整合性を確かめる。 |  |  |  | [思考・判断・表現]ワークシート本時は、Ｃ（１）エに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、以降の評価に生かすための評価とする。[主体的に学習に取り組む態度]ワークシート本時は、自らの学習の調整ができているかについて見取るが、次時で評価をするための指導に生かす評価とする。 |
| 10 | ○　前時に学習したことを基に、伏線と表現の効果について、自分の記録を修正する。 |  |  | 〇 | [主体的に学習に取り組む態度]ワークシート・ここでは、粘り強く、表現の効果について根拠を明確にして考え、学習課題に沿って記録しようとしているかを確認する。振り返り |
| 四 | 11 | ○評価問題 |  | 〇 |  | [思考・判断・表現]評価問題・ここでは、伏線描写の表現を探し、その表現の効果について根拠を明確にしながら、自分なりの意味付けを行っているかを確認する。 |

８　本時の学習

(１)本時の目標

表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

粘り強く、表現の効果について根拠を明確にして考え、学習課題に沿って記録することができる。

(２)学習の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意点（◇）「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て（◆） | 評価規準と評価方法 |
| １　めあての確認２　選んだ本から「伏線」だと思った表現の箇所を書き出す。３　伏線の回収がされている箇所を探し、説明する。４　探した伏線の根拠を説明する。５　同じ本を選んだ生徒同士で交流をする。６　振り返り | めあて　「伏線」を探し、フラグ回収の根拠を説明する。◇「伏線」だと思う表現を書き出させる。◆情景描写や繰り返し出てくるキーワードなどに着目させる。◇「伏線」が明らかになっている箇所を探し、書き出させる。◆伏線と同じ言葉や描写が出てきている箇所を探させる。◇伏線と回収箇所にどのようなつながりがあるか考え、その根拠を説明させる。◆なぜそう考えたかを口頭で答えさせ、文章を作る助けとさせる。◇記録したワークシートを基に伏線と回収箇所のつながり　を、根拠を踏まえて説明させ、その整合性をお互いに確認させる。◆書いている生徒のワークシートを参考にさせ、まとめさせる。※同じ作品で違う箇所の伏線を取り上げていても、整合　性があれば良いものとする。 | [思考・判断・表現]ワークシート表現の効果について、根拠を明確にして考えている。[主体的に学習に取り組む態度]ワークシート粘り強く、表現の効果について根拠を明確にして考え、学習課題に沿って記録しようとしている。 |

９　板書計画

めあて　伏線を探し、フラグ回収の根拠を説明する。

　①　フラグが立ったところ

　②　立ったフラグが回収されたところ

　③　①②のように考えた根拠

　　　　＝

　　　 事実

　　（本文に書いてあること）